



政策・メディア研究科2年

学籍番号81824646

平紀和

研究目的と背景

本研究の目的は、次世代の育成をテーマに新潟県三条市で開催されている大学サマーリーグで大会の企画のみならず、大会の運営も担う大学3年生企画員の変容プロセスを検証、大学スポーツ界における新人戦の効果を実証し、地方における大学スポーツ大会の活性化への繋がりに寄与することである。

研究の舞台は新潟県三条市パール金属スタジアム
2006年、農機具販売が専門の(株)丸富が新規事業として球場の指定管理制度にB-town(Baseball-town)三条計画を掲げ応募



2009年～阪神ファーム戦開催



2011年、丸富からSFCへのオファー(研究者との連携)



2015年～次世代育成大学野球サマーリーグ開催

※参考文献：松橋崇史/金子郁容/村林裕『スポーツのちから-地域をかえるソーシャルイノベーションの実践』慶應義塾大学出版会,2016年

体育会野球部の抱える問題

強豪大学野球部では、部員数の増加(120名～180名)による部員の実践経験が不足している。

サマーリーグは新人野球部員にとって、一軍入りを目指す大きな機会の場となっている。

※大学によっては甲子園出場校を中心に毎年スポーツ推薦で15名の野球部員が入部する。

Research Question

なぜ大学サマーリーグに企画運営で参加する大学3年生企画員に変容が起こったのだろうか。

※参考文献『政策リサーチ入門』伊藤修一郎著、東京大学出版、2017年第7刷

仮説1、企画活動がライフスキルアップに繋がったのではないかな。

仮説2、大学サマーリーグが企画員にとってインターンのような役割を果たしたのではないかな。

仮説3、大学3年という微妙な学年が作用したのではないかな。

仮説4、ゲームマネージャーとして4日間、試合の運営に参加したことも大きく作用したのではないかな。

仮説5、モチベーションの高さが作用したのではないかな。

先行研究：学生による企画運営

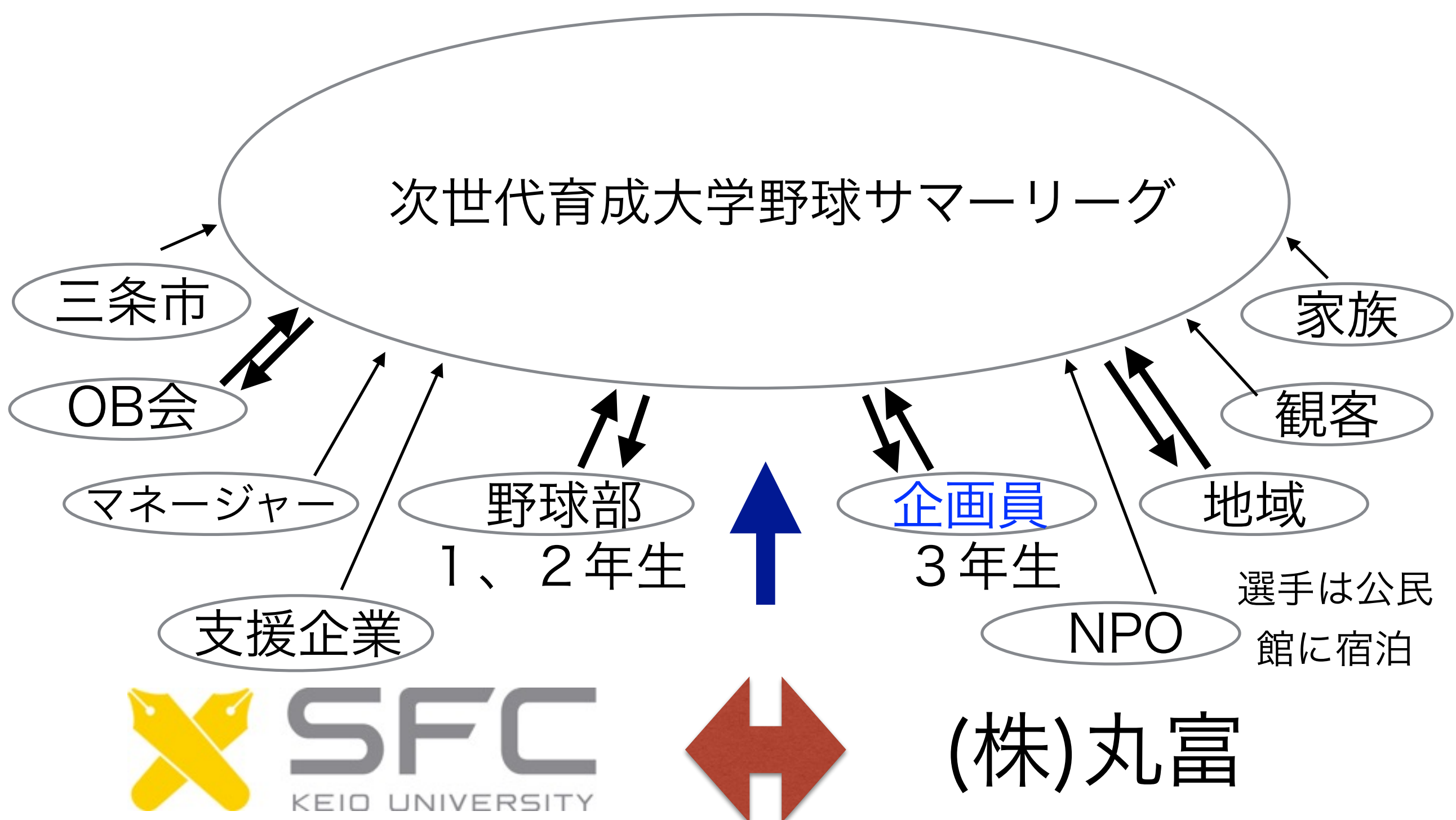
『人材育成とスポーツ教育プログラムの構築-国際交流イベントを事例に-』

同志社健康科学(第5号)向山昌利、来田宣幸、横山勝彦28-38,2013年

概要：台湾の中学生ラグビーチームと交流試合を行った岩手県釜石市中学生ラグビーチーム(釜石ジュニア)インタビュー調査。スポーツを通じた人材教育を実現させる仕組みを提案した論文。

34~35P「地域スポーツでのボランティア活動への参加、運動部活動主催のイベントを企画運営するといった活動は、選手の新たな態度や行動を必要とし、自らの属性と異なる多くの人々と触れ合い、自分自身とスポーツを客観的にとらえる経験となるであろう～地域でのボランティア活動は、多様な価値観に触れる機会と考えられる。」

35P「体験的实践の積み重ねは、社会において必要とされる人間的態度や素養を育むのである。」



次世代育成大学野球サマーリーグ 参加校数などの推移

開催年	参加大学数	県外からの参加大学生	試合数	地元高校との試合数	企画運営に関わる学生数	地域交流プログラム（野球教室など）
2015	3	60	4	0	2	1
2016	5	120	8	1	2	1
2017	6	180	21	6	5	1
2018	6	220	20	4	12	3
2019	9		29	7	15	6

次世代育成大学サマーリーグ2018年度企画員13名のサマリー

名前	所属大学	サマーリーグでの経験が、就職や人生に影響を及ぼした。	企業の面接で活かされた。	部に持ち帰れるような経験があった。	インカレ形式の影響で他校に友達ができた。	今後も三条市、サマーリーグに関わっていきたい。	就職先・特筆すべき点
Y.I	早稲田	○	○	○	○	○	大学院進学・選手を兼ねる
T.T	早稲田	○	○	○	○	○	都市銀行・選手を兼ねる
R.O	法政	○	○	○	○	○	地方局アナウンサー
A.Y	法政	○	○	○	○	○	地方銀行
M.S	慶應	△	○	○	○	○	大手企業、野球部外の企画員
H.K	慶應	○	○	○	○	○	大手企業
N.O	慶應	○	○	○	○	○	大手企業・サマーリーグ後に学生コーチ
R.N	慶應	○	○	○	○	○	大手企業・4年よりベンチ入り
Y.K	慶應	○	○	○	○	○	都市銀行・サマーリーグ後に学生コーチ
K.N	慶應	○	○	△	○	△	大手企業・北海道キャンプ帯同でサマーリーグ不参加
T.F	明治	○	○	○	○	○	国営放送・サマーリーグ後マネージャーに
T.A	立教	○	○	○	○	○	都市銀行・選手を兼ねる
S.H	立教	○	○	○	○	○	大手企業・選手を兼ねる

研究計画

		マイルストーン	先行研究	インタビュー	M-GTA分析	アンケート	論文
8月	前半		読み込み・精査	三条市	概念抽出		構成作成
	後半		↓	関係者			構成確定
9月	前半						執筆
	後半						
10月	前半					分析	
	後半						
11月	前半						
	後半						草稿提出
12月	前半						↓
	後半						完成
1月	前半	12日論文提出					最終確認
	後半						
2月	前半	1日・2日最終試験					